

国際委員会 アジア学術会議等分科会（26期・第11回）
議事要旨

1. 日時：令和8年3月27日（金）10:00～11:00
2. 場所：Zoom開催
3. 出席者：澁澤委員長、佐竹副委員長、日比谷委員、吉澤委員、高山委員、深田委員、金谷委員、窪田委員、谷口委員
事務局：仁林参事官、国際業務担当室員
4. 議題等
 - (1) 第24回アジア学術会議（パキスタン会合）の開催結果について（報告）

事務局より令和7年11月に開催された第24回アジア学術会議（パキスタン会合）の開催結果について報告された。その後、実際に参加された高山委員より現地でのコンファレンスの運営状況や今後の連携の可能性について発言があった。
 - (2) アジア学術会議等分科会委員長の交代について
日比谷委員より、次期アジア学術会議等分科会委員長として高山委員の推薦があり、すべての委員がこれを了承した。その後、日比谷委員より澁澤委員長の在任期間中の取組について紹介があった。
澁澤委員長からは、これまでの活動を振り返り、会議運営に当たりこれまでの国際活動担当副会長や分科会委員、事務局等への謝辞が述べられた。また、高山委員からは、今後の活動についての意気込みについて挨拶があった。
 - (3) 第25回アジア学術会議（カンボジア会合）の開催概要について
事務局より、第25回アジア学術会議（カンボジア会合）の開催概要及び令和8年3月に実施したカンボジア・シェムリアップへの事前視察について報告があった。その後、実際に参加された高山委員よりプログラムの調整状況や現地の治安情勢等について発言があった。
 - (4) AASSA役員会等について（報告）
佐竹副委員長より、AASSAの活動状況について直近の役員会等での報告内容を中心に報告があった。澁澤委員長からは、アジア学術会議と同様にアジアを包括する国際学術団体であるAASSAに対して、日本学術会議として今後も関与していくことの重要性について発言があった。

(5) その他

事務局より、次期に向けた申し送り事項について素案が示され、特殊法人化以降の日本学術会議によるアジア地域を中心とした地域交流・協力の推進に向けて意見交換を行った。

委員からは、アジア学術会議の事務局を担う日本学術会議がアジアの国・地域において中核的な役割を担っていることをより明確に位置付ける必要性や、フューチャー・アースをはじめとする取組を通じた人材育成の観点をより重視すべきこと、また、国際情勢を踏まえつつも各国・地域のアカデミー間での学術交流には継続的に取り組んでいく基本的な考え方等について発言があった。

その後、澁澤委員長からは、各委員からの意見を踏まえ申し送り事項の内容を修正し、国際委員会委員長を務める日比谷委員のもとで最終的な調整をしたい旨、発言があった。

最後に、本分科会における議事要旨については、会議後に事務局より全委員に照会のうえ、最終的な承認は澁澤委員長に一任することですべての委員が了承した。

以上